

## 研究主題「目的や意図に応じて伝えたいことを適切に話し、 話し手の意図をつかんで聞く児童の育成 —「協議」の学習を通して—

東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
板橋区立蓮根第二小学校 主任教諭 小泉 裕子

### 第1 研究のねらい

これまでの文部科学省や東京都教育委員会の調査結果から、小学校国語科の「話すこと・聞くこと」の領域において、「話し手の意図を捉えながら聞き、適切に表現すること」、「聞き取った情報をもとに、考え判断すること」、「司会の役割として話合いの観点を整理したり、質問の意図を捉えたりすること」に関して課題が明らかになった。

小学校での授業においても、「話すこと・聞くこと」に関して、聞かれたことに対し、その内容を正確に理解せず回答する児童や、話合いで互いの考えや意見を十分に検討せず、結論を出してしまう児童がいる実態がある。

これらの課題や実態を踏まえ、「話し手の意図をつかんで聞き、情報を整理して内容を理解する力」や「相手の立場や状況を踏まえて、自分の考えを相手に伝える力」を児童一人一人に十分に身に付けさせることが必要であると考えた。そのためには、互いの立場や話し手の意図を明確にし、課題解決に向けて話し合う活動を児童が繰り返し経験する場の設定が必要である。とりわけ、役割を明確にした上で、相手の意見を聞く必然性をもち、考えを広げたり深めたりして、考えや意見を一つにまとめていく協議を段階的に取り入れることが有効であると考えた。

そこで、本研究では、話し合うことで目的や意図に応じて考えや意見を話し、話し手の意図をつかんで聞く力を児童に育むため、次の指導を取り入れる。まず、話し合うことに必然性をもたせるため、課題設定を工夫する。次に、司会者、記録者、発言者の役割を意識させ、協議の方法を理解させるために視聴するモデル映像を作成する。単元を通して活用し、場面に応じて児童に話合いの方法を提示する。そして、課題解決に向けて、考えや意見を一つにまとめていく手法を取り入れた話合いを、単元に意図的・計画的に位置付ける。具体的には、発言内容を整理して議論をまとめさせたり、新たに提案させたりできる課題を取り上げ、単元に複数回の話合いを位置付けて、児童がそれぞれの役割を経験できるようにする。

### 第2 研究仮説

考えや意見を比較・分類し、条件に合わせて内容を選択して一つにまとめていく学習活動を行えば、目的や意図に応じて伝えたいことを適切に話し、話し手の意図をつかんで聞く力が児童に身に付くであろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）を基に、「話すこと・聞くこと」の領域における身に付けさせたい力の系統性を整理した。また、文献からは「話合い」の形態について、内容、方法、適した学習活動を整理・分析した。さらに、先行研究からは「話し合うこと」の能力を高めるための指導方法を調べた。これらの基礎研究から、相手に分かるように話し、意図をつかんで聞く力を身に付けさせるための方法を明確にすることや、音声言語の特徴を考慮し、話したり聞いたりする過程で児童に話合いの内容を具体的に捉えさせることが有効だと分かった。

## 2 調査研究

平成26年7月に、都内公立小学校6校の教師75名と5校の第5、6学年児童322名を対象に、意識調査を行い、「話すこと・聞くこと」の領域において、教師の指導の取組状況や課題、児童の学習に対する意識を明らかにした。

### (1) 「話し合い」に関する意識調査結果

話し合いで、「相手の話を聞いて、共通点や相違点について考える」という指導の取組状況に関する質問に教師の33%が「当てはまる」、59%が「やや当てはまる」と回答した。一方、児童の学習に対する意識では、29%が「当てはまる」、45%が「やや当てはまる」と回答した。この結果から、教師の指導の取組状況と児童の意識に差があり、教師の取組状況に比べて児童の意識が高まっているとは言えないことが明らかになった。「相手の考えを踏まえて、自分の考えを広げたり深めたりする」、「司会や記録の役割に基づいて話し合う」という内容の質問でも、同様の結果であった(図1)。

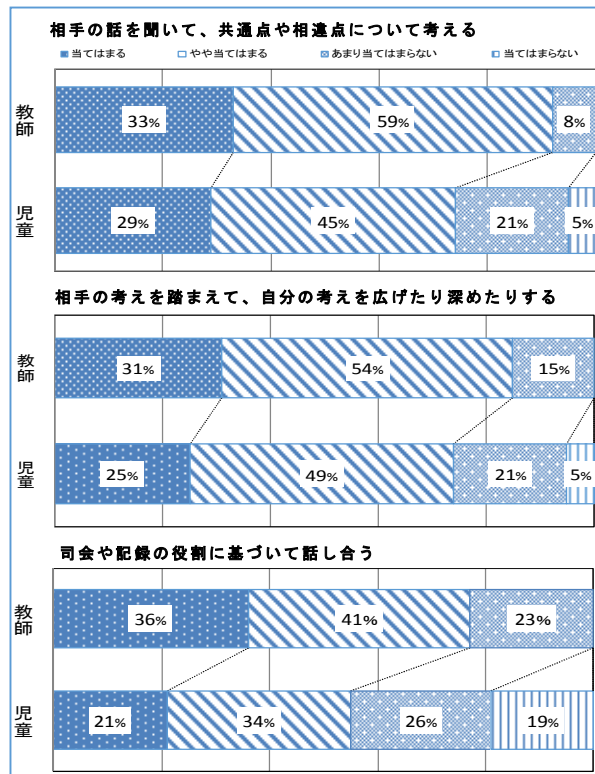


図1 「話し合い」の意識調査結果 (7月)

また、「相手の考えを踏まえて、自分の考えを広げたり深めたりする」という質問に肯定的に回答した児童は、「共通点や相違点について考える」という質問に82%、「司会や記録の役割を行う」という質問に64%が肯定的に回答した。一方、否定的に回答した児童は、「共通点や相違点について考える」という質問に51%、「司会や記録の役割を行う」という質問に34%と、肯定的に回答した児童よりも低い結果であった。これらの結果から、否定的に回答した児童に比べて、肯定的に回答した児童は「共通点や相違点について考える」、「司会や記録の役割を行う」意識が高いことが明らかになった。

### (2) 「協議」に関する意識調査結果

教師の93%が「協議」の指導について難しさを感じていると回答した。特に、「考えや意見を一つにまとめる指導」に難しさを感じていると回答した。また、児童の73%が「話し合いで考えが一つにまとまらずに困った経験がある」と回答した(図2)。

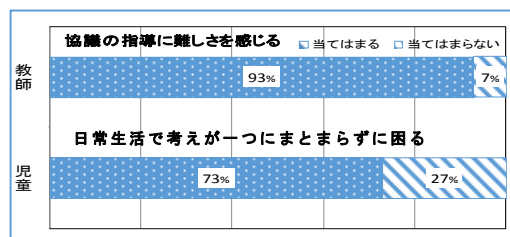


図2 「協議」の意識調査結果 (7月)

教師も児童も考えや意見を一つにまとめていく協議に難しさを感じていることが明らかになった。

### (3) 調査結果からの考察

これらの結果から、「話し合いの内容を整理して聞くこと」、「相手の考えを踏まえて、自分の考えを広げたり深めたりすること」、「司会や記録の役割に基づいて話し合うこと」、「考えや意見を一つにまとめていくこと」の四つの課題が明らかになった。これらの課題解決のために、役割分担を明確にした上で、考えや意見を出し合い一つにまとめていく協議の指導の工夫を図る。考えを整理し、考えを広げたり深めたりする過程で、伝えたいことを適切に話したり、意図をつかんで聞いたりする力を身に付けることができると考えた。

### 3 開発研究

#### (1) モデル映像の活用

協議の進め方がイメージしやすいように、児童に視聴させるモデル映像を制作した。「考えを出す」、「考えを分ける」、「集約の方法を決める」、「決定する」、「確認する」の場面で構成し、学習場面に合わせて活用できるようにした。また、協議で司会者、記録者、発言者の役割（表1）を意識させるため、学習の導入部分でモデル映像を活用する。

|     |                 |
|-----|-----------------|
| 司会者 | 話題に沿って話し合いを進行する |
| 記録者 | 付箋を活用して内容をまとめる  |
| 発言者 | 考えを聞き、自分の考えを話す  |

表1 協議の役割

#### (2) 考えを一つにまとめる過程の提示

課題解決に向けて、考えや意見を比較・分類し、条件に合わせて内容を選択して一つにまとめる過程を提示した（図3）。児童が、考えを一つにまとめるための手順を理解して協議を行うことは、相手の考えを捉えて、自分の考えを広げたり深めたりして話し合うことができるようになる。その結果、互いの考えや意見を尊重して話し合う態度の育成につながると考えた。

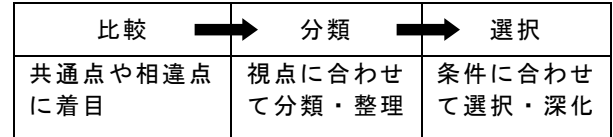


図3 考えを一つにまとめる過程

|     | 大変よくできる                       | よくできる                | できる                 |
|-----|-------------------------------|----------------------|---------------------|
| 司会者 | 考えを深めさせて話し合いを進行する。            | 条件を意識して話し合いを進行する。    | モデル映像を参考に話し合いを進行する。 |
| 記録者 | 分かりやすく整理する。                   | 考えを比べたり分けたりする。       | 種類ごとに分ける。           |
| 発言者 | 話を聞いて考えを詳しく話したりよさを取り入れたりして話す。 | 共通点や相違点について聞き、考えを話す。 | 結論から話し、話を正確に聞く。     |

表2 自己評価目標

これまでの話し合いの経験やモデル映像の視聴から、児童一人一人に目標を設定させ、毎時間、自己評価を行わせた。話し合い方を習得するために「自己評価目標」を作成し、話し合いの役割に応じて学習の達成度を評価させた（表2）。

### 4 検証授業（10～11月実施）

都内公立小学校第5学年において授業を実施し、開発物の有効性を検証した。

【単元名】「思い出作りプロジェクト」—計画を立てて6年生と遊ぼう—（6時間）

#### (1) モデル映像の活用

モデル映像の有効性を観察や映像記録から検証した。児童は、モデル映像を手掛かりに役割を意識して協議を行った。発言者は、相手に分かりやすく説明するために、結論・理由の順に話したり、相手の考えを聞いて自分の考えを伝えたりしていた。司会者は話題に沿って協議を進行させ、合意を得て結論を出していた。記録者は、付箋を操作して考えを整理し、発言をメモしていた。モデル映像の活用は、協議方法を共通理解することができるため有効であった。また、役割が明確になると、当事者意識をもって協議に参加し、それぞれの立場から考えを一つにまとめる方法を理解することにつながった。

#### (2) 考えを一つにまとめる過程の提示

児童の協議を録音し、音声記録を基に、考えを一つにまとめる過程の提示について有効性を検証した。まず、児童は付箋に書かれた個人の考えを読み、共通点や相違点に着目して比較・整理することができた。次に、考えの分類を行った。回数を重ねるごとに、発言に沿って分類の視点を決定することができた。賛成意見を中心に「考えのよさを取り入れてまとめる」指導を行った結果、よさを取り入れてよりよい考えを選択するだけでなく、考えを深めて話し合うことができた。また、一人一人の考えを尊重して、話し合おうとする姿もあった。

考えを一つにまとめる過程に基づいて、児童の協議内容を分析・整理した。その結果、期待できる児童の姿に近付けるための指導上の留意点が明らかになった（表3）。

| 手順             | 期待できる児童の姿                            | 留意点  |
|----------------|--------------------------------------|--|
| ① 比較する         | ・互いの考えを捉えることができる。                    | ・数が多くなり比較・整理に時間がかかる場合には、考えの数を限定させる。                            |
| ② 分類する         | ・視点に合わせて考えを整理すると様々な角度から検討できる。        | ・視点の決定に時間がかかる場合には、二～三つの視点で順番に整理させる。                            |
| ③ 条件に即して考えを選択  | ・条件を意識させることで、話題に合わせて協議をすることができる。     | ・反対意見が多くなる、話題がそれる、十分に検討せずに決定することが考えられるときには、よさを取り入れて話し合いを進めさせる。 |
| ④ よさを取り入れてまとめる | ・条件をより意識して、よりよい考えを選択し、考えを統合することができる。 | ・十分に検討せずに考えを統合する場合は、条件を意識させて考えを深めさせる。                          |

表3 考えを一つにまとめる過程の分析・整理

また、毎時間、音声記録を基に評価を行った。児童一人一人の発言を分析することができるだけでなく、次時の活動へ生かすことができるため、有効であった（表4）。

### (3) 自己評価の工夫に関する検証

授業の始めと最後の「自己評価目標」を比較した。

|     | 比較 | 分類                 | 条件に合わせて選択<br>(説得力)     | 評価 |
|-----|----|--------------------|------------------------|----|
| 児童① |    | ・混合、スピード、その他で分けよう。 | ・だんだんスピードをあげるとスリルが出るね。 | A  |
| 児童② |    | ・どちらにもあてはまらないね。    | ・5、6年混合で楽しむのはどうかな。     | A  |

表4 児童の発話記録と教師の評価

「相手の話を聞いて、自分の考えを詳しく説明したり、よさを取り入れたりして考えを言う」ことができると評価した児童は、23%から50%に増加した。自己評価が上がっている児童の記述を分析すると、自分自身に関する内容に加えてグループの協議に関する内容が増えていた。回数を重ねるごとに、協議に対する意識の変容が明らかになった（表5）。

|       | 協議①<br>遊びを決める                   | 協議②<br>遊び方の工夫を決める                    | 協議③<br>説得する内容を決める                               | 全体協議<br>クラスの遊びを決める                                   | 協議④<br>振り返り   |
|-------|---------------------------------|--------------------------------------|---|--|---|
| 児童の記述 | 初めてにしては、よくできた。これからもっとうまくしていきたい。 | 司会者をやって、どのようにまとめたらよいか分らず、困って少し大変だった。 | 自分の考えだけでなく友達考えを取り入れて発言できた。少し話題から、それていたので、気を付ける。 | 残念ながら、自分の班の遊びには決まらなかったけれど、今まで話し合いを一生懸命してきたので、すっきりした。 | 聞く力と話す力が付いた。発言が前よりできるようになった。司会や記録に挑戦し、協議をするときにこの方法を生かしたい。 |

### (4) 児童の意識の変容

表5 児童の自己評価と学習後の記述

単元終了後に、「話すこと・聞くこと」に関する意識調査を実施した。その結果、「共通点について考える」、「考えを広げたり深めたりする」、「司会や記録の役割をする」意識の高まりが認められた。また、「話し合いで考えが一つにまとまらずに困る」と意識する児童が減少した。

## 第4 研究の成果

- ・モデル映像の活用は、協議の方法や役割に応じた技能を捉え、活動に生かすことになる。
- ・考えを一つにまとめるために、比較・分類し、条件に合わせて内容を選択して協議をさせることは、考えを整理して聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることに有効である。
- ・話し合いの課題を選定し、役割を明確にした協議は、自分の考えを相手に分かるように話したり、相手の考えをしっかりと聞いたりする技能が高まる。

## 第5 今後の課題

- ・協議を他教科や日常生活で、活用を図ることができるように年間指導計画に位置付ける。
- ・考えを一つにまとめる過程に「よさを取り入れる」という手順を提示した学習指導案を作成し、実施する。